

各 位

平成13年9月7日

株式会社 神戸製鋼所
(コード番号) 5406

平成14年3月期 決算見通しについて

当社の第149期(平成14年3月期)の決算につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

(1) 連結決算見通し

当期のわが国経済は、米国経済の減速や世界的なIT関連需要の失速に伴う輸出環境の悪化に加え、国内においてもIT関連を中心に堅調に推移していた民間設備投資が減少傾向に転ずるなど、景気は本格的な後退局面に入りつつあります。また年度後半には、一連の構造改革に伴い、消費の更なる低迷が見込まれるなど、景気は一層厳しい状況になるものと予想されます。

このような状況の下、当社及びグループ各社は、収益の確保に向けて最大限の努力を払ってまいりました。

当上半期の売上高は、厳しい経済環境の影響を受けて、全体では前回見通しから100億円程度減収の5,900億円程度となる見通しであります。

損益につきましては、鉄鋼関連事業における販売価格の下落影響に加え、その他の事業においてもIT関連需要の減退に伴う業績悪化が見込まれることから、経常損益は前回見通しから100億円減益の100億円程度となり、当期損益は前回見通しから30億円減益の20億円程度となる見通しであります。

下半期につきましても、鉄鋼関連事業を中心に、引続き厳しい需要環境が続くものと予想されます。

この結果、通期の見通しにつきましては、売上高は、前回見通しに比べて200億円減収の12,400億円程度となる見通しであります。また損益につきましても、鉄鋼関連事業を中心に減益が見込まれることから、経常損益は前回見通しに対し190億円減益の0億円程度を、また当期損益は前回見通しに対し70億円減益の0億円程度を見込んでおります。

(億円)

		売上高	経常損益	当期損益
今回見通し	当中間期	5,900	100	20
	通 期	12,400	0	0
前回見通し	当中間期	6,000	0	10
	通 期	12,600	190	70
前 期 実 績		13,730	500	65

(2) 単独決算見通し

当上半期の売上高につきましては、各部門とも概ね前回見通し並みの売上高を確保できることから、全体でも前回見通しと同程度の4,000億円程度となる見通しであります。損益につきましては、鉄鋼・溶接部門が悪化することなどから、経常損益は前回見通しから30億円減益の0億円程度を、税引後の当期損益は前回見通しから20億円減益の0億円程度を見込んでおります。

通期の見通しにつきましては、売上高は鉄鋼・溶接部門の減収が見込まれるものの、機械部門の増収が期待できることから、全体としては前回見通し並みの8,300億円程度となる見通しであります。また、損益につきましては、鉄鋼・溶接部門において下期も引続き厳しい状況が続くものと予想されることから、経常損益は前回見通しから120億円減益の0億円程度を、当期損益は前回見通しから50億円減益の0億円程度を見込んでおります。

(億円)

		売上高	経常損益	当期損益
今回見通し	当中間期	4,000	0	0
	通期	8,300	0	0
前回見通し	当中間期	4,000	30	20
	通期	8,300	120	50
前期実績		8,168	146	605

〔中間配当について〕

中間配当につきましては、平成13年3月末において欠損金を計上いたしましたことから、誠に申し訳なく存じますが、商法の規定により実施することができません。

事情ご賢察のうえ、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

以 上